

# 不妊のこと、1人で悩まないで

－「不妊専門相談センター」の相談対応を中心とした取組に関する調査－

厚生労働省政策統括官付政策評価官室 アフターサービス推進室

## 調査の背景

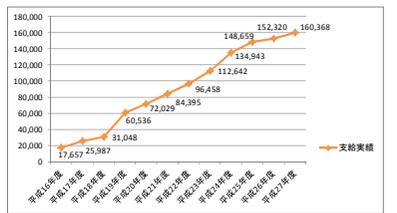
### 【不妊治療の現状】

・わが国の総出生児数に占める体外受精及び顕微授精による出生児数の割合は、8年間で1.79%から4.71%へと増加(平成18年度から平成26年度)。

年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
総出生児数(人)	1,092,674	1,089,818	1,091,156	1,070,035	1,071,304	1,050,806	1,037,231	1,029,816	1,003,539
生殖補助医療出生児数(人)	19,587	19,595	21,704	26,680	28,945	32,426	37,953	42,554	47,322
割合(%)	1.79	1.80	1.99	2.49	2.70	3.09	3.66	4.13	4.71

【厚生労働省子ども家庭局作成資料(平成29年7月)をアフターサービス推進室にて一部改変】

・不妊治療の経済的な負担の軽減を図る「不妊に悩む方への特定不妊治療支援事業」の支給は10年間で約9倍に増加(平成16年度～平成26年度)。



【厚生労働省子ども家庭局作成資料(平成29年7月)に基づきアフターサービス推進室にて改変】

《不妊とは》 ※公益社団法人日本産科婦人科学会による「妊娠を望む健康な状態の男女が性交しているにも関わらず、一定期間(1年間)妊娠しない状態」のこと

## 不妊に悩む方の現状

### ＜身体的・精神的な苦痛＞

- ・検査、治療の過程における痛みなど(例:採卵や複数回の注射)
- ・治療の成否による切迫感、服薬の副作用など(例:焦燥感、不安感)

### ＜治療の継続に伴う経済的な負担の増加＞

- ・年齢と疾病に応じて異なる治療法
- ・保険適用外の治療費用

### ＜ネガティブな感情やストレスの発生、環境の変化など様々な悩み＞

- ・夫婦(パートナー)間の関係性の変化
- ・治療の休息、終結の決断
- ・生活と治療の調整
- ・医療者とのコミュニケーション 等



不妊の悩みは多様で身近な人にも相談しづらく、正確な情報の把握が困難な場合も多い

## 調査先の概要

### 【不妊専門相談センター】

無料で利用できる自治体の相談支援窓口。都道府県、指定都市、中核市等が運営。大学/公立病院、保健所等に設置。

### 【調査先】

岐阜県、大阪府、鳥取県、大分県、札幌市

## 主な調査結果

### 【相談支援】：相談者が辛い状況を少しでも納得しながら過ごせるための支援

- ・不妊に関する悩み全般(夫婦間のコミュニケーション、性に関する問題、不育症に関する相談、治療と仕事・生活の調整など)を受けとめ、親身に対応
- ・不妊に関する専門知識を持つ相談員(医師、助産師、不妊を専門とする看護師やカウンセラー等)が不安に寄り添い、不明な点を丁寧に説明

〔実施している不妊専門相談センター〕

岐阜県、大阪府、鳥取県、大分県、札幌市



【相談支援の様子】  
夫婦での相談は関係性の改善にも有効的・治療前の疑問にも回答

### 【交流会(サポート・グループ)】：緩やかなつながりによる支え合いの場づくり

- ・不妊に悩む当事者や経験者が集まり、境遇や感情を共有する心の拠りどころ
- ・参加者が自身の状況を理解し、不妊への向き合い方を前向きに捉える効果

岐阜県、大阪府、大分県



【サポート・グループ】

### 【講演会・セミナー】：不妊治療の正確な情報を知る機会の提供

- ・生殖医療の現状などの不妊に関する正しい情報を専門家から周知
- ・不妊に悩む方がセンターを知り、個別の相談などを利用するきっかけづくり

大阪府、鳥取県、札幌市



【講演会・セミナー】

### 【相談支援・交流会を利用した方の感想】

相談利用者から

- ・不妊検査や治療について不安や不明な点に丁寧に答えてもらい、今後の対応についてスケジュール感が持てるようになりました。
- ・医学的なことを知ることができ、不安を取り除くことができました。(インターネット等の不確かな情報に不安を感じていましたが病院では聞けなかったの)

交流会参加者から

- ・聞いたり聞いてもらったりできる場があるだけで心が軽くなることができました。
- ・流産してひどく落ち込んだとき、(相談員)さん、メンバーさんにも助けてもらいました。同じ思いをされた方の言葉は、大きな心の支えになりました。